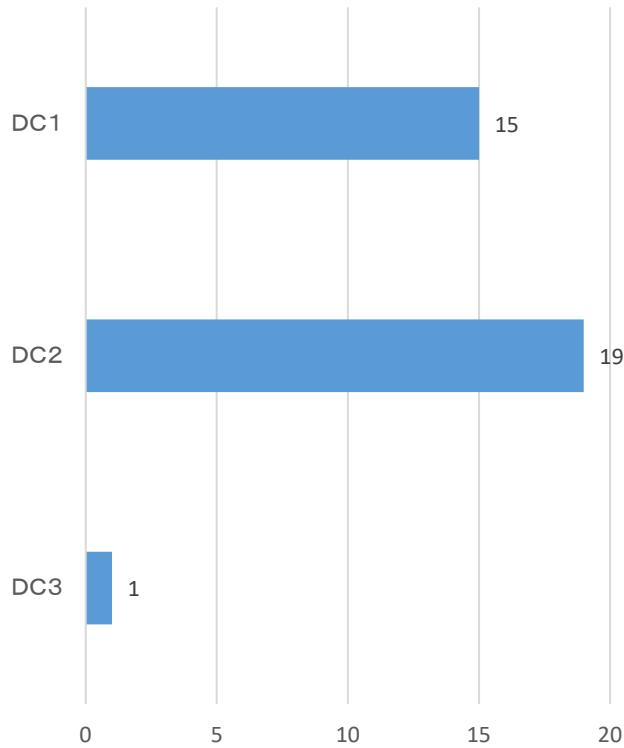


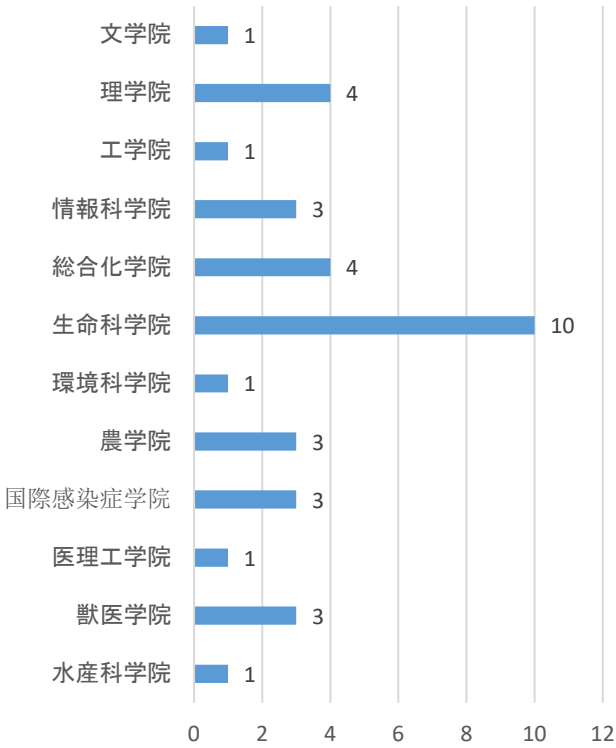
第59回（R7第2回）赤い糸会 アンケート

[1] 回答者：博士人材34名（※うち26名分掲載）
企業18名（参加者：博士人材35名・企業15社）

博士人材学年

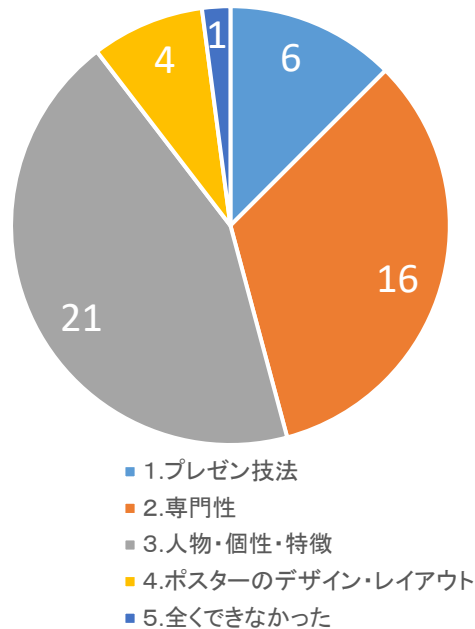


博士人材所属

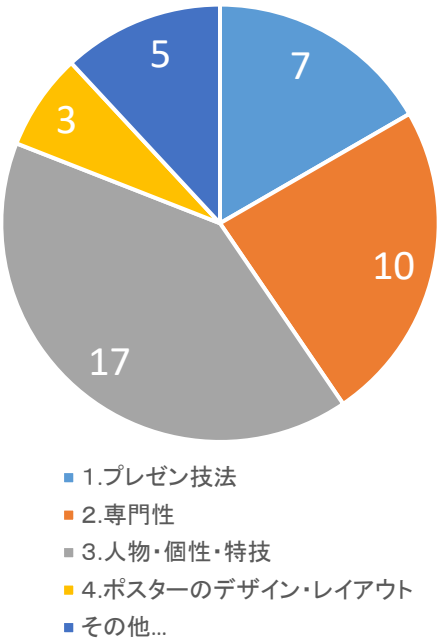


[2] 博士人材ポスター発表（複数回答可）

アピールできた点（博士人材）



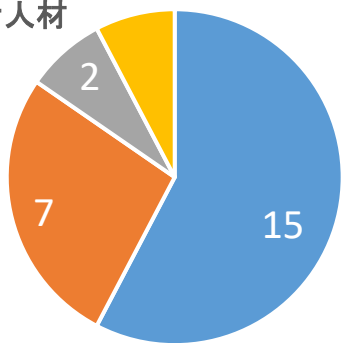
注目する点（企業）



[3] 企業／博士人材とコンタクトがとれましたか？

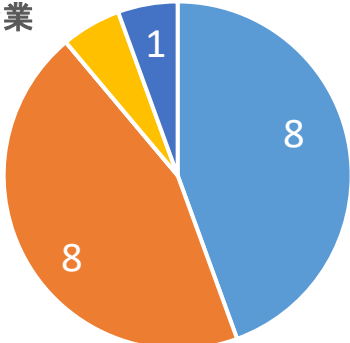
■昼食会でのコンタクトについて

博士人材



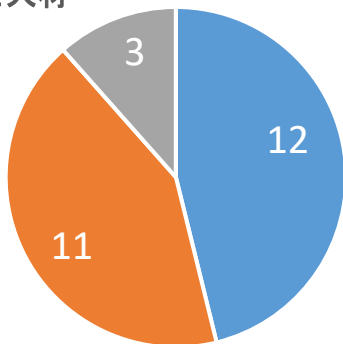
- 1. 十分コンタクトがとれた
- 2. ある程度はコンタクトがとれた
- 3. あまりコンタクトがとれなかった
- 4. 全くコンタクトがとれなかった
- 5. 不参加

企業



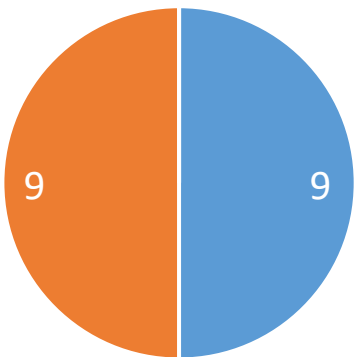
■ポスター発表でのコンタクトについて

博士人材



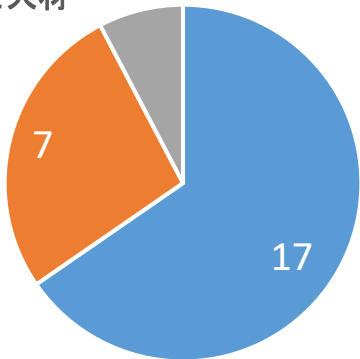
- 1. 十分コンタクトがとれた
- 2. ある程度はコンタクトがとれた
- 3. あまりコンタクトがとれなかった
- 4. 全くコンタクトがとれなかった
- 5. 不参加

企業



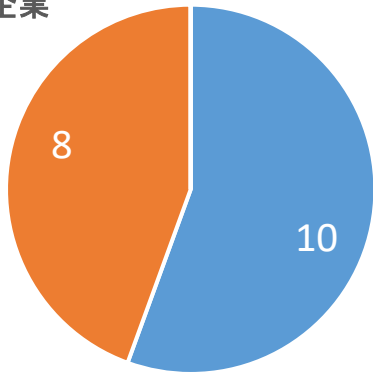
■企業ブースでのコンタクトについて

博士人材



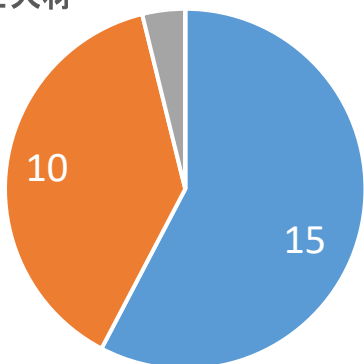
- 1. 十分コンタクトがとれた
- 2. ある程度はコンタクトがとれた
- 3. あまりコンタクトがとれなかった
- 4. 全くコンタクトがとれなかった
- 5. 不参加

企業



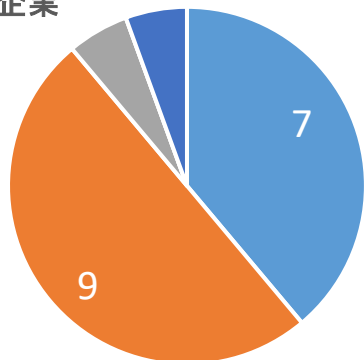
■情報交換交流会（懇親会）でのコンタクトについて

博士人材



- 1. 十分コンタクトがとれた
- 2. ある程度はコンタクトがとれた
- 3. あまりコンタクトがとれなかった
- 4. 全くコンタクトがとれなかった
- 5. 不参加

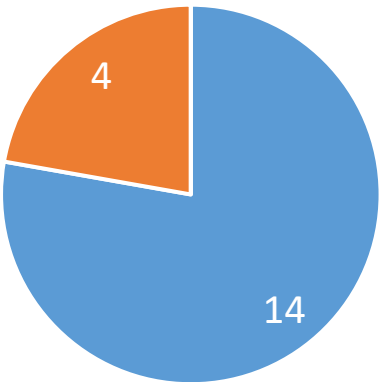
企業



全体を通して様々な企業とコンタクトを取るように行動した結果、ほぼすべての企業と何らかのタイミングで話すことができた。
ポスター発表で企業の方を捕まえるのはできたが、本イベントで一番話しかけた会社には発表できなかった。 (途中いなかった)
気になる企業として事前にアンケートに挙げていた企業の方が、実際にポスターに見に着てくださり、コンタクトを取ることができたため、よかった。
自分の専門とは異なる企業も多くいた中で、自分の専門性や企業との接点のアピールはできたと思う。
かなり難しかった。自分の専門分野がフィールド系で、「専門性」が上手くポスターでまとめられていなかったこともあり、企業が自らポスターを訪れることがなかった。一度出身が同じ企業とお話をしたとき、「(企業の)専門分野が違うのでちょっと違うと思うんだけど」と言われた時には、どうしたらよいのか分からなくなった。当日開会式の企業向けのアンケートでは、重視する事項として人柄が多く票を得ていたが、やはりとっかかりの的なものは専門性や研究内容であり、準備段階でそれらが不足していた私にとっては、企業とのコンタクトがすごく難しい結果となった。
自分が興味のある企業と複数のセッションでコンタクトをとることができ、幅広い話を伺うことができた。
ポスター発表では私が長く話し過ぎてしまったため、発表一回あたりの時間がかかり、2時間で交流できる人数が少なくなってしまった。次回イベントでは、研究内容の説明に割く時間を短くすることで回転率を向上させたい。 企業からのコンタクトについては、懇親会等も含めて十分に交流することができた。
仕事環境や求められている能力などについて、企業の方とリラックスして話すことができて良かった。
予め興味を持っていた企業とはたくさん話ができしたが、それ以外の企業との話があまりうまくできなかった。
昼食も企業様とともにできたのが大変良かったです。
昼食会で島津製作所の方とかなり話すことができた
全体を通して十分コンタクトをとれた気がする。
企業が異なると、雰囲気と話し方はぜんぜん違いました。 私の経験には、専門合う企業のキリンとJTがあり、キリンさんは優れた発表や知り合い関係がないと結構私に対して興味ない無視したい雰囲気でした。JTの方は逆で、同じ研究者、特に植物研究出身のメンバーは素直の話し方で、深く自身の経歴と企業の求める人材像について議論できました。
キャリアの幅が広がり、今後について深く考えるきっかけになり参加して良かったです。

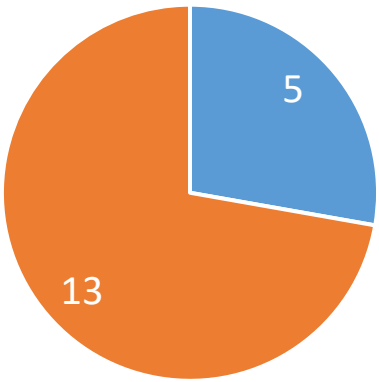
[4] 企業のみ

参加博士人材について



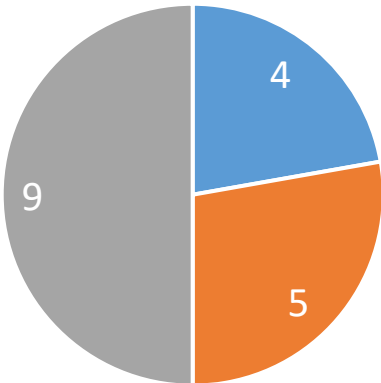
- 1. 欲しい分野の博士人材に会えた
- 2. 意外な分野の博士人材に出会えた
- 3. どちらでもない

参加博士人材に対する今後の対応をお聞かせください



- 1. 採用したい博士人材がいたので、今後交渉を進めたい
- 2. 採用については未定だが、今後もコンタクトを取りたい博士人材がいた
- 3. コンタクトを取りたい博士人材はいない

DC・PDのインターンシップ(1ヵ月位)について

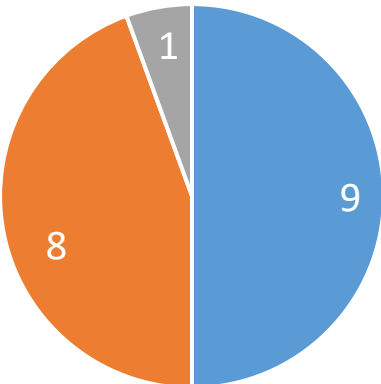


- 1. 受け入れを表明している
- 2. 受け入れてもよい
- 3. 受け入れは難しい

「3.受け入れは難しい」を選択された方：
差し支えなければ、理由をお教えてください。

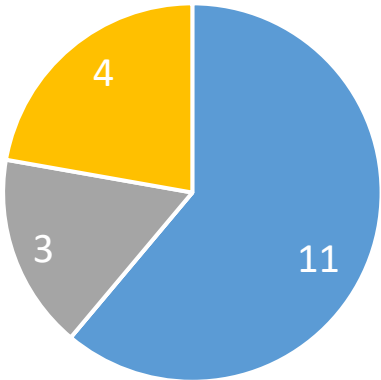
実際に生徒のいる場所を体験していただくのが困難なため、別の方法を模索中です。
現在インターンシップの企画を行っていないため。
新卒向けに長期インターンシップの制度を設けておらず、DC・PDであっても受け入れは難しいのが現状です。
現状、インターンシップを実行しない方針であるため。
会社の制度として受け入れ可能かは現状未定です。
1ヶ月単位での受入について社内確認が現時点では取れないため
期間が1か月はなかなか難しいかもしれませんが、1～2週間程度であれば可能かと思います。
現場負担も鑑みると、1週間が限度

DC採用について



- 1. 定期的に採用したい
- 2. 時期に関わらず、採用したい
- 3. 採用については未定

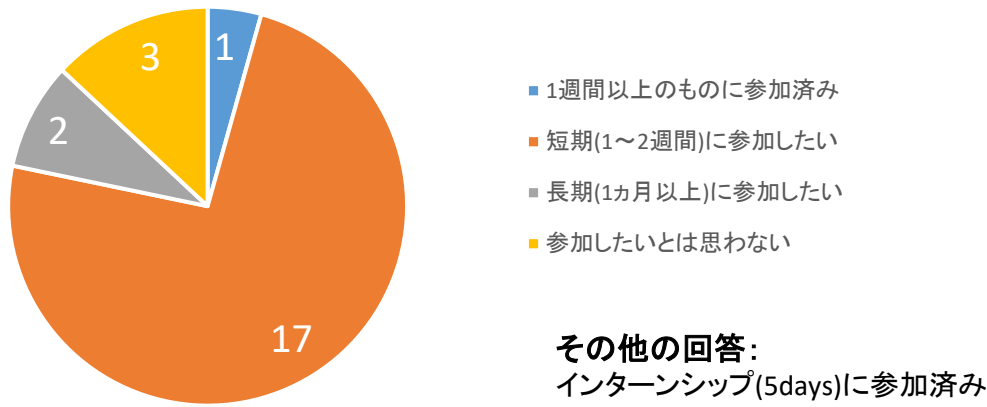
Hi-System (博士人材と企業の双方向ネットワーク) の利用について



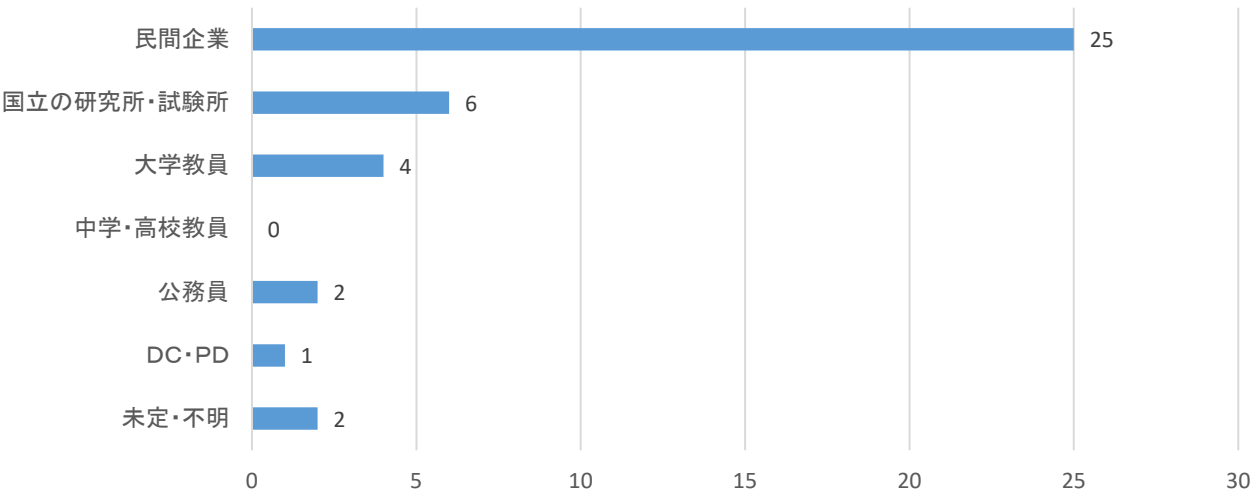
- 1. イベント参加
- 2. コミュニティ
- 3. 博士人材検索
- 4. 利用していない

[5] 博士人材のみ

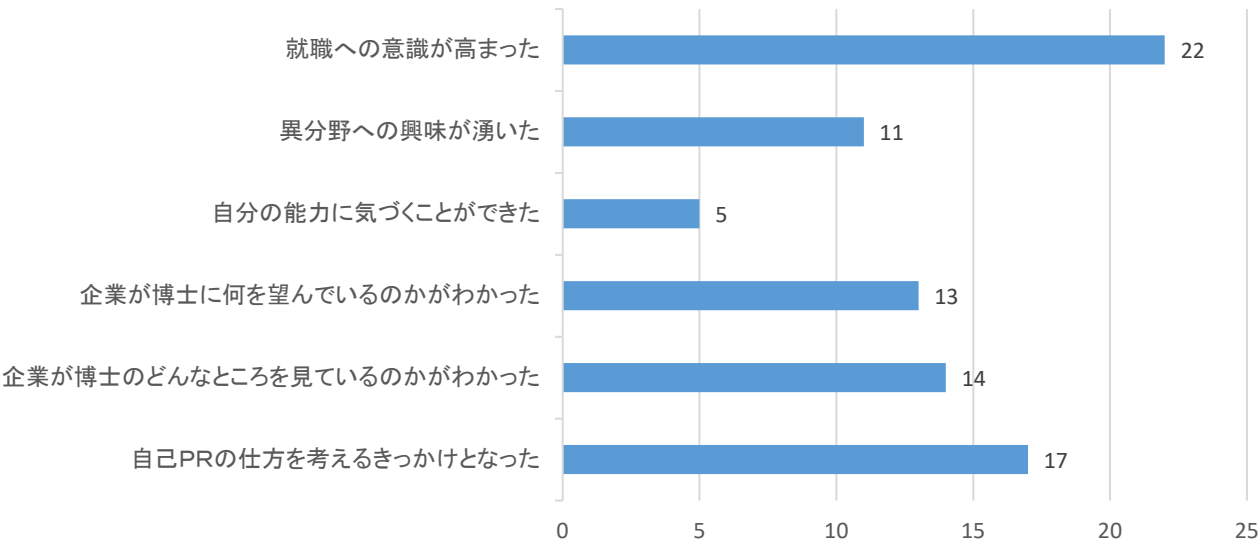
本会参加の企業に限らず、インターンシップに参加したいと思いますか。



あなたは、今後のキャリアパスをどのように考えていますか？（複数回答可）



「赤い糸会」は、進路決定の参考になりましたか？（複数回答可）



[6] 「赤い糸会」に参加して新たな気づきはありましたか。
それはどのようなことですか。（博士人材のみ）

1	会社によって雰囲気がぜんぜん違う
2	採用側は、研究そのものでなく、研究活動を通して見る「わたし」を知りたいのだなと思った
3	企業が思う専門性と博士学生が思っている専門性の違いに気づくことができました。 今後は、入社後2,3年の即戦力性ではなく、10年20年先の将来可能性を論理立ててPRしていこうと思いました。
4	研究内容的でどの会社が好きそうな内容かが企業の方々にバレた。 半分以上の企業さんは通信系を取り扱っていないので、もしこの研究に近いことややりたいならうちではできないかもみたいな感じ少し距離を感じた。
5	博士課程の学生ならできて当たり前であると思っていたことが、実際には自分の強みの一つであると気付けた。
6	異なる専門性を持つ他者に対して、自身の専門性を伝えることの難しさを再度実感したと同時に、「上手な話し方」についても考えさせられるきっかけとなった。
7	・自分が就職したいのか/アカデミアで研究を続けていきたいのかが少しクリアになった ・同期の就職希望の学生がどのようなモチベーションや、進捗で就活をしているのかについて把握できた ・研究室からのコネクションや先輩からのアドバイスがほぼ無い状況かつ、初見では企業が求める博士人材ではない研究をしている学生にとっても、対面で話すことによってHPや又聞きでは知りえない多くの情報を手にすることが出来た ・迷い・不安、本当に就職したいと思っているのか、ということ、赤い糸会で学生が横一列に並べられたときに、学生の希望や意志は企業にとっては手に取るように伝わってしまうのだと思った。
8	博士採用では、自分が取り組んできた専門性の深さを必要とされるが、ほとんどの企業では専門の内容は問われないということを知ることができました。自分の専門分野で限定せずに、自分が何をやりたいのか、どういう会社で貢献したいのかを考えようと思います。
9	自分が知らない事業領域や働き方がまだまだあることや、意外なところで博士人材が求められているという気づきがあった。
10	今回参加されていた三桜工業様のように、現在の業種が自分の専攻と大きく違う分野の場合にも広く募集しているということを知れました。
11	企業の人事や研究員の方々が、何を考えて採用・研究活動を行っているのかを知ることができた。
12	自身の知らなかった企業について、知る機会になった。
13	専門性の重要性和外国人就職の難しさ
14	企業に対して、研究内容がどのように応用と結びつくか強調する必要があると気づいた
15	専門性と同程度かそれ以上に、研究への向き合い方やマネジメント能力が評価されることが実感できた
16	博士課程で醸成すべき能力は、専門的な知識や技能だけでなく、研究のプロセスに関わるものであるということ。
17	企業へ自分の研究を発表する際、自己PRと研究のつながり方について新たに考えました。

18	研究職以外に就きたい思いが強いのではないかと気づいてきた。
19	毎回、参加のたびに志望業界への視野が広がります。 実際に業務についてお話を伺うと、自身の知らなかった事業や取り組みをされていることが多く、勉強になります。 また、前回参加した初の対面での赤い糸会よりも、緊張せず、リラックスして企業様とお話することができました。企業様とのコミュニケーションへのイメージが、当初は「評価されている」「絶対に間違いの無いようにしなければ」というものでしたが、互いの向いている方向ややりたいことのすり合わせを行うための対話であると気づくことができました。
20	直接企業の方とお話しして、雰囲気を感じるのは非常に大事だと意識しました。
21	専門性以外を評価いただけた点（専門外への挑戦や研究室運営など）
22	ポスター演習などで事前に教えて頂いていたことではあったが、自分が良いと思っていた自己アピールが企業へのアピールとしてずれていることを改めて感じた。
23	将来何をしたいのか、はっきりした。異分野でも活躍できる場があることがわかった。
24	工業などの会社には人手不足を感じて、しかし農学院や理学のいろんな専攻には新卒採用の歴史がなかったので、お互いには 色んな分野を挑戦してみてください しか合意を達成できなかったです。逆に薬学やタバコの会社には少しでも専門性が合わないと話しが進めないですね。
25	自分のモチベーションがどのようなところにあるのかについて。
26	意外と今まで気づけなかった領域にも自分のできることがあると気づいた

[7] 今後、博士人材へ期待すること・要望など（企業のみ）

1	新しい分野に対しても、調査、計画立案、結果考察、次期計画立案が独立してできること。 知らない技術、分野などについて他者を巻き込みつつ、自分の土壌にしていける力をもつこと。
2	これまで研究を続けてきた専門分野にこだわらず、新たな分野への挑戦もチャンスであると考えられる人材を求めています。
3	専門性の高さと北大生たる生命力の強さ。 少々のことではこたえぬ北大生は、そのメンタルそのものも大きな武器と考えます。
4	専門性と柔軟性を併せ持った人材
5	専門外の領域でも立ち回る（リーダーシップを取れるか）ことも重要なポイントですので、自分の専門領域+アルファでどのようなことができるか？アカデミアではなく企業を選択するうえで自身の強みは何か？を語れることが大切だと思います。
6	自分の専門性を高めることに引き続き邁進して欲しいです。
7	学位取得のプロセスで磨き上げた考察力を武器に活躍されること、期待しています。

8	専門性を高めるとともに、専攻以外の社会への関心を持って就職、アカデミアを検討頂ければと思います。
9	弊社の場合は、記者職やデジタルIT職での採用を前提としているため、必ずしも学生さんがこれまで学んできた専門性がそのまま生きるわけではない場合が多いです。ただ、「勉強する→考える→問題提起する→実証する→解決する」というループを回す「知の体力」こそが博士人材の力であり、これらは記者職の自ら課題を見つけ→取材・調査し→記事にまとめあげ→世に発信するというプロセスと似ている部分が多くあります。特に技術や医療の専門誌の場合は、これまでの学びが役立つことも多く、近年入社した博士人材も楽しそうに働いています。 ぜひこうした仕事もあるのだと今後も交流を通じて紹介できればと思います。 今後もよろしくお願いします。
10	研究に没頭すると同時に視野を広げること
11	自身の専門性に拘りをもって高めていただきたいです。 一方で、自身の分野外でも活躍の場を模索する姿勢を期待しております。
12	社会課題⇒業界課題⇒グループの課題⇒1人の課題という形で、研究において課題の解像度を高めていくと、解決策の解像度も高まり、より良い研究ができるかなと思います。 また、自分の周囲からの特定ルートでの少数の口コミによる企業への印象を持っている学生が多いと感じましたので、アカデミアでの先行研究調査のように、幅広いデスクリサーチ・幅広いフィールドリサーチを、お忙しいと思いますが、実施するとバイアスがなく、事実に近い企業実態を掴めるかも知れません。
13	赤い糸会にご参加されている博士人材の方々は、ご自身の研究テーマだけでなく、社会や企業に対する興味が非常に高く、素晴らしいと思っております。 今後とも興味を広く持って様々なことを吸収する意欲を持つ方が増えるとういと思っております。
14	専門性を磨くことは勿論ですが、研究内容への理解そのものというよりは「研究へ取り組む姿勢」を磨いていただけると良いと思います。

[8] 全体を通して、「赤い糸会」（赤い糸ONLINE）についての意見、要望など

博士人材

1	ポスター発表あと、かなり疲れた。一口おやつを用意しておけばよかったと思った。
2	定番の就職ルートから外れたいと考えていた私にとって、非常に大きな気づきを得られる貴重な機会となりました。運営・企業・参加学生の皆様に感謝いたします。
3	北大だからなのか、EXEX受給者の分野の偏りなのかはわかりませんが、どうしても化学系や薬学系、生物系の方が研究内容がマッチするような企業が多いと思った。参加学生もその分野が多いと思った。その分、異分野の企業に説明する練習になっていい機会になった。懇親会が短く感じた。
4	今回来ていただきかった企業の方にポスターを見ていただくことはできたので、個人としては満足でした。
5	このような機会を定期的に提供いただき大変助かっています。ぜひ続けていただけると嬉しいです。

6	S-cubicの皆様にはとにかく感謝しかありません。赤い糸会においての学生側は、企業との交流に関する事項以外のすべての手続きを考慮しなくてもよいフロー・イベント設計になっており、センターの皆様の用意の周到さや懐の深さに大変感銘を受けました。 意見として提出しても仕方ないことだとは思いますが、強いて言うなら、今回の赤い糸会は文系からの参加が1人なこと、化学系の学生が大半を占めることなど、参加学生の専門分野に極端に偏りがあるように感じました。そのため、同専門分野の学生がどのようにアピールをするのか・就活を進めていくのかについてもう少しざっくりばらんに学べる機会があれば大変幸いに思います。 また、閉会式の際に行われたポスターセッションの優秀者発表ですが、専門性・プレゼン能力・人柄・個性などなど、企業側が選抜した優秀者がどこをどういう形で評価したのかについて教えていただけるとありがたかったです。同時に発表している学生にとっては、その学生がどんな素晴らしい発表をしているのかについて把握が難しいので、できれば投票した企業様の意見込みで教えていただけると、今後の参考になるかと存じました。
7	化学バイオ系の赤い糸会から二回目の参加だったが、思ってもいなかった企業との交流で興味を持ったり持ってもらえることがあった点がよかったので、分野を絞った会と幅広い企業が参加する会の両方を開催してもらえると学生としては気づきがあってよいと思う。
8	今回の日経BP様やSAPIX様のような文系の方も多く取るような企業の方の話が聞いてみたいと感じたので、そのような企業が増えてくれるとありがたいと感じました
9	企業からのショートトークを事前にオンデマンド配信するなどして、企業ブースでの情報交換の時間を長くしてほしいです。(学生が2・3人いるブースでは質疑応答の時間が短く感じました。) 情報機密等の理由から難しいかもしれませんが、) また、赤い糸会終了後も、参加企業の情報を定期的に配信してほしいです。(インターンシップ、事業内容、OBからの情報発信など)
10	とても貴重で良い機会をありがとうございました。来年もまた参加したいです。
11	(+)プログラムが充実しており非常に満足(一)会の時間が長く、後半の疲労感が厳しい。 午前の会社説明時間を削減して(各自で各社を事前調査)、前倒しでもいいように思われた(午後の会社交流ブースがあるため)。
12	対面での開催回数を増やしてほしい。
13	ポスター発表について、企業側の人数に対して学生の人数が多いように感じた。
14	文系の院生と、それを採用したい企業をもっと参加していただきたいです
15	有価証券報告書の見方をもう少し具体的に説明した資料があると嬉しいと感じた。
16	お忙しい中、大変お疲れさまでした。 今回の赤い糸会は、化学・バイオ系の回と比べて時間が長く、企業様と十分にコミュニケーションをとることができるプログラムであったと感じました。 可能であれば、次回の化学・バイオ系においても、今回と同様の形式で実施いただけると、より有意義になるのではないかと存じます。 また、化学・バイオ系の際にも感じた点ではございますが、ポスター発表時に企業様がおられる位置に偏りが見受けられました。 例えば、発表開始時に会場奥の方にいらしたとある企業様とぜひお話ししたいと考えておりましたが、終始その周辺の場所にいらっしゃり、終了時刻まで声をかける機会を得られませんでした。 これは博士学生側から積極的に声をかけに行っているということの表れでもあり、すでに企業様にお声がけいただいている内容であるとは存じますが、可能であれば、より広範囲にローテーションいただける仕組みがあると大変ありがたく存じます。

17	素敵なイベントを開催していただき、ありがとうございました！全体的にとってもよく考えて計画されていると感じました。私自身、最初はポスター発表に慣れていませんでしたが、練習の際にポスターの作り方についていろいろご指摘いただき、改善できました。また、おかげさまで他の企業とのマッチング面談でも自己アピールが以前より上手くできるようになったと思います。赤い糸会当日の懇親会の後には企業の方から二次会にもお誘いいただき、とても良い機会となりました。お弁当は美味しくいただきました。
18	有意義な時間を過ごすことができました。運営等誠にありがとうございました。
19	自分の将来を考えて決めていくことに必要なことを実感できる貴重な時間を過ごせた。
20	この度は、大変貴重な機会をご用意いただき、誠にありがとうございました。 参加者の人数等の関係でやむを得ない部分もあったかと思ひますし、スタッフの皆様も工夫をしてくださっていただいたことと存じますが、ポスターの場所によっては、交流できる企業の方に偏りが出てしまう点が少し気になりました。
21	研究者出身の中堅社員や人事さんとの交流を楽しんでいます。
22	さらにさまざまなイベントに参加したい。土日だとなお嬉しい

企業

1	初めて参加しましたが、学生さんの魅力が伝わる意義深い取り組みだと思いました。学生さん方が、積極的に企業メンバーに声をかけ、ポスターに誘導されたり、非常に積極的であると感じました。
2	「赤い糸会」は数ある博士イベントの中でも非常に完成度の高いイベントであると思います。
3	赤い糸会ははじめ、13大学コンソーシアム参加大学主催のイベントに参加される学生さんは、大学からのご指導が行き届いていると感じます。他の場所で会う学生さんと比較して、特にコミュニケーション能力で大きな差を感じます。
4	今回1年生が多かったので、また来年来てくださいとお願いしました。
5	今まで、把握しておらず、すみません。これを機にしっかりと関与を深めてまいりたいと思います。
6	ポスター発表では、例年以上に学生の皆さんが積極的で、多くの学生さんに呼び込みを頂きました。この点が今までになかったのでとても驚きました。
7	博士人材と濃く過ごせる時間は大変魅力的でしたが、28卒や29卒等、まだ採用活動の遠い方々よりは、企業としては27卒の学生と多く触れる機会であった方がありがたいと感じました。
8	質の高い学生さんにお会いすることができたので、満足しております。
9	2年前に「赤い糸会」に参加した時よりも、博士人材の方が、ポスター発表などの場でより積極的に企業の方に話しかけるようになっていたと感じました。そのため、ポスター発表中ほとんど手持ち無沙汰の時間が無く、非常に有意義な交流ができました。
10	色々な分野の学生と密に交流できる赤い糸会のようなイベントは大変ありがたく活用させていただいております。
11	赤い糸会OBとして応援しています。今後も是非参加させて下さい。
12	対面開催は一日のイベントで、博士学生と懇親を深めることが可能なプログラムとなっておりとても有意義でした。今後とも是非よろしくお祈いします。一方で、オンラインと対面の複数回あることで学生参加が分散してしまうのかなと感じました。より多くの専攻の学生と一度にお会いできると企業様としてはより有意義に感じます。

13	今回は長時間にわたりありがとうございました。丁寧なご連絡やスムーズな進行など、事務局のみなさまに感謝申し上げます。 良かった点： ・このくらいの規模感だと、大体の学生と話すことができ、関心を持った方とはある程度の時間話すことができたのでとてもよかったです。 ・特に意見交換会では、学生の緊張がほぐれ、素の表情が少し見れたのが良かったです。 次回もぜひお願いしたいです。 ・学生たちが積極的で、特にポスターセッションでは積極的に声をかけていただいたのが印象的でした。 ・企業プレゼン時間についても良かったです。他のイベントだと2分程度と短いところが多いのですが、それだと一般的な話だけで終わってしまうので、7分はある程度博士人材向けの話もできるので学生にとっても有益かと思いました。私自身他企業の説明も勉強になりました。 改善いただきたい点： ・荷物の事前発送については、次回はぜひお認めいただきたいです！
14	この度は企画運営、誠にありがとうございました。非常に有意義な時間でした。対面でのイベントは積極的に今後も参加させていただければと思います。一方でスケジュールの都合から留学生向けのイベントはお断りとなり申し訳ありませんでした。可能でしたら連日開催にいただけますと弊社の都合にはなりますが、社内合意が得られやすいです。また、13大学のマッチングイベントにつきましてもお声掛けいただけますと幸いです。
15	赤い糸会では有意義な時間を過ごさせていただきました。(特に対面の)マッチングイベントは、学生の専門性や人柄を直接確認できる貴重な機会です。来年度も開催されるようであれば、ぜひとも参加したく存じます。
16	事務局の皆様の尽力のおかげで、非常に良い取り組みだと思いますので、今後もどんどん発展的に進めていただければ幸いです。ただ、学生とも1回会うだけに終わってしまうケースも多いので(年に1回という性質上。また学生も忙しく何度も参加しない。)、博士課程3-4年間という中で、何度か、大学主催で交流の場が持てると成長した姿も見えたりして良いなと思います(もちろん、企業側で主催するイベント、見学会、インターンシップ等はどんどん進めます)。
17	今回初めて参加させていただきましたが、非常に有意義な会でした。これからも継続的に参加させていただきたく存じます。
18	優秀な博士学生に出会える、非常に優良なイベントであると感じます。今後も是非、開催していただきたいです。

[9] J-window（先端人材育成センター担当教員との面談、エントリーシートなどの添削、面接練習）の利用について

